

ある。国から研究費として出ることになっている。担当医師が四月末に来て計画を立て、その後動き出す。

(小野崎家、公民館費)

問 東地区公民館の管理体制はどう考えているのか。

答 現在、公民館には二名の職員がいる。小野崎家は人事異動か平福記念館で管理するか検討していきたい。東地区公民館は勤労青年ホームの職員一人を含め検討していきたい。

(学校給食費)

問 給食費の口座振替により、他の市町村では滞納が増える傾向にあるようだが、その方式を取り入れた理由は。

答 滞納が増える傾向にあるのは承知しているが、集金人方式は前から引き受ける人がいないなどの問題があった。今後滞納が増えないよう努力していく。

二十年度仙北市病院事業会計予算

問 総務省から医療改革の見直しが出されているが、田沢湖病院のベッド数六十床

中、四十床の稼働率であれば、七十%を割ってしまう。医師が三名になったのでこれをクリアできないか。

答 総務省の改革プランではベッドの稼働率が七十%を恒常的の切る病院が三年以内に経営の効率化を図り、五年以内に経営形態の見直しを図ることになっている。新しいドクターの配置が決まったので四十二床以上は確実にやれると思っている。



角館東地区公民館となった旧角館東小学校

産業建設 常任委員会

本会議から当委員会に付託された案件は、議案二十三件、陳情二件、意見書の審査二件の合計二十七件である。

仙北市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に係る固定資産税の課税免除に関する条例制定について

問 この条例の簡潔な説明と、市として、企業進出等、期待出来るものはあるのか。

答 企業進出の優遇措置として、交付税の参入、減価償却の特例、保健の適用、農地転用手続きの迅速化等がある。進出の可能性に期待しているのは、バイオマス関係、断熱材関係である。

(農林水産業費)

問 農業所得向上のための冬季間の振興対策の現状は。

答 旧田沢湖、西木地区では、寒じめホウレンソウ、たら

培等の経緯がある。最近では菌床シイタケが好調である。

畜産関係では西木地区で飼育頭数が増え、後継者も育ってきている。

二十年度は夢プラン補助事業を活用して玄米パン製造希望者もあり、農家の意向は多様化してきている。

今後積極的に取り組む意欲のある農業者の好みにあつた施策を実施していきたい。

十九年度仙北市一般会計補正予算(土木費)

問 地方道路整備臨時交付金事業の組替えの経緯は。

答 この事業計画である田沢湖橋耐震補強工事はJRとの事前協議で、仙北市の事業となつていたが、JR秋田支店から近接工事であり、JRの事業を進めることになった。

事業は二十一年度出なければ実施できないとの事で、検討した結果、同じ枠の中にある事業で栃木六本杉線の事業費に組替えるものである。

委員会からの意見(抜粋)
工業団地の造成について

仙北市は今、農林業の低迷や相次ぐ倒産で市民生活は困窮している。企業誘致は緊急の課題であり、工業団地の造成を急ぎ、企業の進出に備えるべきである。

古城山の賃借料について

賃借料についての契約内容と経緯の検証、整備計画の明確な方針を確立すべきである。

田沢湖高原の観光について

仙北市の活性化を考えた場合、スキー場閉鎖が続く高原地区の冬季観光のあり方について着目すべきと考える。活性化計画に向けた財源について配慮すべきだ。



JRの事業になった田沢湖橋耐震補強工事